2008 年度

科目名	対象学科・学年	担当者
文化財学研究指導及び演習（文化財構造論）	研究科前文１回生 研究科後文１回生	犬木　努

授業テーマ

修士論文および博士論文の執筆に向けて――型式論の論理と方法を学ぶ

授業の概要と目標

①修士論文（または博士論文）執筆に向けての研究指導と、②型式論への理解、という二つの柱を設定する。

考古学の基礎はいうまでもなく「型式論」である。しかし、いわゆる概説書などを紐解いてみても、その方法については、通り一遍のことしか記述されていない。どの学問もそうであるが、実践を経ずして方法を学ぶことは困難である。本演習では、具体的資料操作を通じて、型式論の論理と方法への理解を深め、各自の修士論執筆に反映できるようにすることを目的とする。

評価方法

①出席点（発表内容についての評価）

②レポート

テキスト	著者	出版社
使用しない。授業時に適宜資料を配布する。		

参考書	著者	出版社
授業中に適宜指示する。		

授業スケジュール・内容

概ね以下のような内容について、発表形式で進めていく。

①型式論を理解するうえで必要と思われるテーマをこちらで設定し、分担発表してもらう。
②各自の修士論文（または博士論文）に関連するテーマで発表してもらう。
③共通課題を設定し、それに関わる個別テーマを分担し、発表してもらう。
④各自がすすめている資料調査の成果について発表してもらう。

このほか、各自のテーマに応じて、対象とする考古資料の資料調査を積極的に行ってもらい、その結果について、定期的にレポートを提出してもらう。遺跡や遺構をテーマとしている場合でも、その遺跡や遺構の年代決定や性格付けのために、遺物の分析は不可欠のものである。つまり、どのようなテーマを選んだ場合でも、遺物研究は必要不可欠な基礎分野であり、本ゼミにおいてももっとも遺物分析力の育成をもっとも重要している。